

個別事業(取組)評価				
事業No,	35	施策の柱への位置付け	柱④ 心の教育改革	
事業名称	幼少期における感動体験モデル事業		担当課	生涯学習課
			当初予算額(千円)	4,680
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	4,185

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 子どもたちが日常生活の中で、山(森)・川・海などで遊び、体験を通して学ぶということが少なくなっている。特に幼少期において、親子で継続的に参加して体験活動を行う場が少ない現状がある。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成17年度「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」(独立法人国立青少年教育振興機構)における青少年の自然体験活動への取組状況調査をもとに現状分析をしており、概ね把握している。
		【要因】 子どもの発達段階に応じた体験活動のできる場所や、地域において体験活動を指導できる人材が不足している。	イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成20年度に県内の有識者による感動体験モデル事業検討委員会において分析されたものであり、十分に特定できていたと考える。
②	目標(Outcome)	◆ 公募により県内の6団体に体験活動モデル事業補助金を交付し、親子を対象とした自然・文化・社会体験に関する活動を実施し体験活動の場を広げる。 ・ 体験活動実施回数 各団体3回(計18回) ・ 体験活動参加者目標数 親子で延べ600人以上 ◆ 参加者にアンケート調査を実施し、体験活動へ参加することにより「今後も親子での体験活動を行っていきたいと思うようになった」という回答率が80%以上となるようにする。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成20年度に作成した「幼少期感動体験プログラム作成ガイドライン」及び平成21年度の体験活動事業の実施状況を基本とした具体的な、達成可能な目標を設定した。
		【検証(比較)方法】 ◆ 「幼少期における感動体験モデル事業」中間報告会・報告会を開催し、事業の実施内容について検証を行う。 ◆ 体験活動参加者アンケートの実施	エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 体験活動モデル事業補助金の補助団体が8団体となり、それぞれの団体が、団体の特色や地域性を生かした、森、川、海における体験活動を実施している。 ・ 体験活動事業費補助団体:8団体 ・ 体験活動の実施回数:32回 ・ 参加親子数:894人(H20年度の4.6倍) ◆ 参加者から得られたアンケートでは90%以上が「また参加したい」、「楽しかった」と回答している。 ◆ 体験活動の実施により、指導者や補助団体間の情報交換だけでなく人材交流も積極的に行われ、体験活動の場が広がった。
③	実施内容(Input・Output)	◆ 体験活動モデル事業補助金 ・ 補助団体 6団体 ・ 「幼少期感動体験プログラム作成ガイドライン」(H21, 22作成)に掲載しているプログラム事例を参考に、地域の資源を活用して補助団体が実施する事業を支援する。 ◆ 体験活動に関する「幼少期における感動体験モデル事業」中間報告会・報告会を開催する。 ◆ 年間を通じて親子で体験活動ができるフィールドを県内全域に作るために、体験活動のネットワークを整備するとともに、体験マップを作成し県民に情報提供を行う。 ・ 体験活動指導者研修(青少年センターで実施) ・ 体験活動のネットワークの整備 ・ 「体験マップ」作成・配布	オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 体験活動モデル事業補助金の交付は、8団体への補助を行った。 ◆ 体験活動の中間報告会・報告会では、体験活動の情報交換、指導者交流、ネットワークの整備等を行った(中間報告会:12月8日、報告会2月24日)。 ◆ 体験活動指導者研修(青少年センター)は、「森のようちえん指導者養成講座」として実施した(2月26日)。 ◆ 体験活動実施団体や体験活動の場の情報をまとめた体験マップを作成し配布した。

総合評価と今後の方向	目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	【今後の方向】 本年度実施された「全国生涯学習フォーラム高知大会」で提言された「高知自然学校構想」の具体化に向け、環境学習推進事業の中に幼少期における感動体験活動を位置付けて、これまでの事業を更に発展・継続させていく必要がある。
	【総合評価】 本事業で体験活動の場所やイベント情報の提供量が増加したことにより、親子が参加できる体験活動が促進された。子どもが自然と触れ合うことで、豊かな感性・想像力だけでなく、協調性やコミュニケーション能力、他者理解などの社会性が育まれていることから、本事業は有効であったと判断できる。	